

真宗入門  
— 宗教的人間の可能性 —

石田慶和

真宗入門 ― 宗教的人間の可能性 ― 目次

第一章 生きることの意味

科学的解決と宗教的解決	7
親鸞聖人の宗教経験	33
人生の出会い―念仏の人	58
歓喜と懺悔の人生	77

第二章 親鸞聖人に導かれて

人生の転機―本願まこと	95
真実の宗教	114

「罪悪」について	147
慈悲の実践―聖道の慈悲・浄土の慈悲	153

第三章 なぜ、浄土に往生するのか

往生浄土ということ	177
往生と成仏	193
還相回向について	209
いま なぜ宗教か	233
あとがき	250
刊行にあたって	256
初出一覧	257

嵩 満也

\*聖教の引用については、  
『浄土真宗聖典(註釈版)第二版』は『註釈版聖典』  
『浄土真宗聖典(七祖篇)註釈版』は『註釈版聖典(七祖篇)』  
と略記しています。

## 第一章 生きることの意味

## 科学的解決と宗教的解決

### 「現代人」とは

「現代」とは「現在の時代」ということですから、「現代人」とはいまの時代の人間のことです。宗教の問題を考えようとする時に、どうしてことさらに「いまの時代の人間」が問題になるのでしょうか。それは、人間のものの考え方が昔と異なるとして大きく変わってしまったからです。

もちろん変わっていないこともたくさんあります。人間にとって根本的なことでは、いつの時代でもまったく変わらないことは、たとえば「生老病死」とか「一切皆苦」とかいわれることがあります。どんな人も歳をとり、病気になるったり、いつかは死ななければならぬし、いろいろな機会に、人間は心に苦しみをもったり悩んだりしなければならぬといったこともあります。けれども、そうした

ことについての原因や解決の方法についての考え方が、今日ではすっかり変わってしまつたのです。それがいま宗教にとつて大きな問題となつています。このことについて少し立ち入つて考えてみましょう。

### 現代人と心の問題

現代の人間は、体の不調の場合には言うまでもなく、心に不安を感じたり悩みをもつたりした場合でも、まず医師に相談しようとしみます。僧侶や牧師に悩みをうちあけてアドバイスを求めるということは、よほどの信者でないかぎりしないのではないのでしょうか。アメリカなどでは、そういう時に相談をうけるのは精神分析医といわれる医師で、風邪をひいた時には内科医に診察してもらうように、人びとは精神的に不安定になると気軽に精神科医に診断をうけるようになります。

どうしてそのようなのか、その理由を、オルポート（一八九七—一九六七）という心理学者は次のようにいつています。現代の人間は、心に不安を感じたり、自分が精神的に健康でないと自覚したりすると、その病気の原因を合理的・科学的に明らかにしたいと思ひます。精神科医は科学者ですから、その原因をみつめてくれるだろうと考えるのです。

そうすれば、自分の内面生活の葛藤に自ら直面したり、他人に立ち入られたりする必要はありません。誰にも知られたくない心の中に踏み込まれるよりも、内臓の故障や血圧の加減で心理的に不安定なのだといわれるほうが、ずっと受け入れやすいことは明らかです。あるいは、働きすぎだとか対人関係からのストレスだとかいわれると、納得することもできるでしょう。僧侶や牧師といった人びとは、病人の悩みを科学的に説明しようとはせず、その心の中に立ち入ろうとしたら、道徳的な立場から判断したり、あるいはお説教やお祈りをするかもしれません。そんなことは閉口だというわけです。

それに、現代科学の各分野と応じて医学もすばらしい進歩をとげました。その医学に対する大きな信頼と期待があります。精神科医は、最近の研究によって人

間の精神について新しい発見とすぐれた洞察を確立しているに違いないと、人びとは信じています。しかも、それは多様に分かれている宗教の教えとは異なって、普遍的で統一している総合的知識であり、信頼度の高いものです。こうなると勝負は明らかです。古めかしい宗教の教えや儀式、懺悔・告白などということは、問題になりません。心の悩みについて力強い解決の道を示してくれるのは、医学、とくに精神医学しかないというわけです。

こうした現代医学に対する信頼は、ある程度まで正しいと言えましょう。軽い心理的な疲れとか、逆に重い精神的な病気については、多くの知識と経験をもつ医学によって治療しなければならぬことは言うまでもありません。しかし、多くの人たちが漠然ともつ不安、あるいは自分の生き方やあり方について感じる疑問、もっと明確に言えば、人間がそれによって本当に生きていくことができる「生きる意味」や「生き甲斐」を見いだすというようなことは、はたして医学的に解決できるのでしょうか。それは、医学の領域の問題ではありません。そこにま

さに宗教の問題があるのです。そのことを、少し別な角度から考えてみましょう。

### ユングの心理療法と二種深信

スイスの有名な心理学者で、また精神科医として精神分析の分野で大きな業績を残したユング（一八七五―一九六二）という人が、一九三二年にシュトラスブルクでキリスト教の牧師たちに対しておこなった「心理療法と牧会ほっかいの關係について」（『心理学と宗教』所収）という講演の記録があります。

「牧会」とはあまり聞きなれない言葉ですが、これはキリスト教で「魂の治療」とか「魂への配慮」ということを意味します。牧師が教会で教えを説いたり、また人びとをその状況に応じて教え導くことで、牧師だけでなく信者たちすべての務めでもあるとされています。ユングはこの講演で、キリスト教の伝道と心理療法との關係を明らかにしようとしているのです。私はそれを読んで、現代における宗教の役割について教えられるところが多くあったと同時に、親鸞しんらん聖人（一一